

Asian University for Women

Newsletter from the AUW Support Foundation

アクセスアカデミー「ドリームチーム」の集結

アジア女子大学支援財団は、2007年夏、アジア女子大学アクセスアカデミーを運営、指揮するリーダーシップチームを結成しました。この前例なきプログラムを実現するために、経験豊富で国際色豊かなメンバーが、若い女性の教育を受ける機会を広げたいという強い思いを胸に、これまでのキャリアから新しい一歩を踏み出しました。

Dil Afroze Quader博士 アクセスアカデミー理事長



ダッカ大学近代語研究所前所長Quader博士は、応用言語学とTESOL(英語教授法資格)を指導する教授職を離れ、アジア女子大学の運営に携わることを決めました。ダッカ大学、ロンドンとエディンバラの大学で教職をとった経験に加え、バンコクに拠点のあるアジア奨学財団の理事長、バングラデシュ英語指導者連盟の財務担当を務めています。ESL(第二言語としての英語)の指導経験および教育への熱意をプログラム全般に反映させるとともに、夫のGhulam Quader少将とアクセスアカデミー宿舎の住み込みハウスマスターを担当します。

M. B. Regina Papa博士 学生募集・入学担当常務理事

「アジア女子大学は私の夢と可能性そのものです—質のよい教育は、女性の生活、その家族、そしてその社会に驚くべき変化をもたらすというアジア女子大学の信念をぜひ立証したいと思います」と語る、アジア女子大学の入学担当・学生募集担当Regina Papa博士。前職は、インドのアラガッパ大学女性学学部長兼教授。女性の教育を受ける機会を拡大することに熱心で、インドで最初の女性学学部をアラガッパ大学に創設しました。ジェンダー論などの講義を持つとともに、南アジアの女性の地位を向上させるための研究に注力してきたPapa博士のキャリアは、まさにアジア女子大学のビジョンを体現しています。Papa博士は、限られた時間の中で、学生募集計画を策定し、各国での学生募集にあたるコーディネーターを指名・養成し、アクセスアカデミーの学生募集を軌道に乗せました。



Rehana Khan教授 入学事務担当副理事

バングラデシュのインディペンデント大学チッタゴンキャンパス教養学部教授として、英語読解力、文章力、応用学習能力を指導してきた経験に加え、恵まれない環境にある女性の健康問題を扱うNGO(非政府組織)にも関わってきました。「これまでは社会に置き去りにされた女性が健康に生きる権利を行使するお手伝いをしてきましたが、アジア女子大学ではそういった女性たちが専門的知識を身につけるお手伝いをしていきます」。



Zarina Hossain氏 運営・地域関係担当副理事

「教育を受ける機会をつくりだすことは、常に私の抱いていた思いでした。アジア女子大学の構想は私たちの多くがこれまで夢見てきたものです—この構想を現実にしていくことは実に刺激的で、このプロ

「地域的・国際的發展に女性教育は極めて重要」 アジア女子大学レセプションin東京

9月11日、20世紀を代表する近代建築の巨匠ル・コルビュジエ展が開催されている東京の森美術館にて、アジア女子大学のビジョンを伝えるレセプションが開催されました。アジア女子大学支援財団の理事である松井キャシー氏(ゴールドマン・サックス証券(日本)チーフ日本株ストラテジスト、汎アジア投資調査部部長)がアジア女子大学への支援をよびかけるために主催したこのイベントには、大学、企業、政府、非営利セクターから、100人を超える著名な方々にお集まりいただき、森美術館の森佳子理事長にもご出席を賜りました。

開会にあたり、駐日バングラデシュ大使Ashraf-ud-Doula閣下が、6年前の9月11日に起きた悲慘な出来事で亡くなった「50人のバングラデシュ人を含む3000人の罪なき人々」を悼し、厳粛で思慮深い開会の辞を述べました。そして、この大惨事が、衝突、不安感、不信感が蔓延する今日の世界情勢に依然として暗い影を落としていると続け、「しかし、進歩と知識の向上を追求し続ける人類が、これまで直面する課題をすべて解決してこられたように、われわれにはすばらしい回復力があるはず」と述べました。閣下は、アジアの女性に教育を受け、女性の地位を向上させることを通して、国際的な理解と寛容さを促進するアジア女子大学の構想は、まさにこの思いにもとづいていると説明しました。

続いて、松井氏がアジア女子大学のミッションとプログラムの概要を説明し、このようなプロジェクトへの日本の関与の重要性を強調しました。「グローバル化が進む世界において、日本の周辺地域全域が社会的・経済的發展を遂げることは極めて重要です。アジア女子大学を支援することにより、日本は地域を通して、世界の平和環境に貢献することができます」。



裏面へ続く

ジェクトと出会った瞬間に私はすっかり引き込まれてしまいました」。バングラデシュ工科大学、アジア工科大学(タイ)で教育を受け、建築家であり、持続可能な開発の擁護者であるHossain氏は、これまでバングラデシュ全域の開発事業に関わってきました。アクセスアカデミーでは、施設の設設計画・管理、警備、部屋・食事の手配、医療制度の計画・管理、地域関係および文化活動などを幅広く監督します。



ゴールドマン・サックス財団

アクセスアカデミー開設に際し、ゴールドマン・サックス財団の多大なるご支援に心より御礼申し上げます。ゴールドマン・サックス財団は、戦略的パートナーシップ、研究助成金、民間投資、ゴールドマン・サックス内での人材開発を通して、教育における卓越性と革新性を促し、世界中の若者の知的能力と生産力の向上を目指す、国際的な慈善組織です。



アジア女子大学レセプションin東京

表面続き

そして、ゲストスピーカーの竹内佐和子博士、Rasha Al-Sabah博士、Nancy Dye博士が、それぞれの視点からアジア女子大学と女性の教育の重要性について述べました。京都大学大学院工学部教授、外務省参与・大使の竹内博士は、日本の支援が重要であるという考えを繰り返した上で、自身の幅広い国際経験にもとづき、南アジアや中東における社会経済的な発展に女性の教育が不可欠であると伝えました。

クウェート高等教育次官であり、アジア女子大学国際支援委員会のメンバーのRasha Al-Sabah博士は、エール大学で博士号を得ており、クウェートでの自身の経験から女性の教育の重要性について述べました。1960年代にクウェートで女性が高等教育を受けられるようになったことにより、クウェート国内の女性だけでなく、アラブ諸国全般の女性に教育の機会が広がったと話しました。この動きにより、「それ以降の世代の女性が大学や高等教育機関を卒業し、国家の労働力となり、やがては政府内でのリーダーのポジションを得られるようになったのです」。

最後に、アメリカのオーバリン大学前学長で、アジア女子大学支援財団のシニアアドバイザーのNancy Dye博士が、途上国における女

性の教育に関わる一連の課題への自身の視点を述べ、会を締めくくりました。Dye博士は、アジア女子大学のカリキュラムの一般教養と多元主義の重要性を取り上げ、「このような学部教育により、自分で考え、根拠にもとづき、問題を解決し、社会正義のために効果的に働くための確固とした心が養われるのです」と話しました。

スピーカーのエネルギーと熱い思いは、出席者の心に強く響きました。アジア女子大学の支援者で、ブライズウォーターハウスクーパースのパートナーKrishen Mehta氏は、「著名な方々がアジア女子大学の重要性と途上国や世界への影響についてお話しになるのを聞き、大変感銘を受けました。女性の立場の向上だけでなくアジア地域全体の向上につながるという意味で、アジア女子大学への支援が極めて重要だということが、この場に出席した方々に十分伝わったのではないのでしょうか」と感想を述べました。



左から：松井キャンシー氏、森佳子理事長、Nancy Dye博士
東京森美術館でのアジア女子大学レセプションにて

透明性とアカウンタビリティ確保のためにBRACと提携

アジア女子大学支援財団はこの秋、大学の設立にあたっての透明性とアカウンタビリティ(説明責任)を保証する重要な決断を下しました。アジア女子大学支援財団会長のJack Meyer氏(Convexity Capital Management専務取締役)は、9月18日、BRAC創設者兼会長Fazle Hassan Abed氏とポストンで会合を開き、BRACがアジア女子大学支援財団の内部監査役を無償で引き受けることで正式に合意しました。

35年の歴史を持つBRACは、子供を小学校に入れるための賄賂から政府系の大きな契約を獲得するための賄賂など、汚職や腐敗が蔓延するバングラデシュにおいて、様々な社会的・経済的確執を乗り越え、効果的で高い評価を獲得してきた国際的な開発組織です。バングラデシュの貧困層が自立することができるよう、マイクロファイナンス(小規模金融)、教育、医療、女性の地位の向上、農業の発展などの革新的で統合されたプログラムを通して働きかけてきた数多くの実績があります。



覚書に署名をするJack Meyer氏とFazle Hassan Abed氏

アジア女子大学支援財団の新しい顔

支援者、学生、教職員やその他のアジア女子大学についてはじめて知る方々に、大学のミッション、価値観、目的をよりよく伝えられるよう、大学のロゴがリニューアルされました。南・東南アジアに自生する花ハス、スイレンのシンボルは、成長とエネルギーを、そしてそれが文字の上におかれていることがリーダーシップを意味しています。すべて大文字で書かれた「ASIAN UNIVERSITY FOR WOMEN」の文字は自信、リーダーシップ、学問の偉大さを表現しています。そして、えんじとマスタードの配色は、南・東南アジアの多くの国旗に見られる色の融合で、大学が地域に根ざした存在であることを表しています。



ASIAN UNIVERSITY FOR WOMEN

アジア女子大学への寄付のご案内

発展途上国世界において、専門知識を持った社会意識の高い女性リーダーを継続的に育成し、輩出していくために、アジア女子大学にお力をお貸しください。アジア女子大学への支援は、本学で教育を受ける学生だけでなく、地域の社会や経済に長期的で大きなインパクトを生み出すことができます。寄付の形態には以下のものがございます。詳細については、お電話(+1-617-914-0500)、またはEメール(info@asian-university.org)までお問い合わせください。

教授・講師関連

- アクセシアカデミー講師研究奨学金 \$25,000
アクセシアカデミーで常勤講師として教職をとる若手講師への支援
- 学部開発基金 \$100,000
教職員の採用、給与や優れた教授の獲得に関わる費用などに充てられる基金の設立
- 教授陣・研究者助成基金 \$100,000～
教員募集やカリキュラム作成など、教育の優先事項に充てられる基金の設立
- 教授職の寄贈 \$1,000,000
アジア女子大学の恒久的な上級教授職ポストの寄贈・命名権

学生支援関連

- アクセシアカデミー奨学金 \$15,000
学生1名にアクセシアカデミー(1年)を受けるために必要な資金を援助する奨学金
- 5年制学生奨学金 \$50,000
学生1名がアジア女子大学で5年間教育を受けるために必要な資金を援助する奨学金
- 5年制学生冠奨学金基金 \$250,000
5年ごとに新入生1名にアジア女子大学で5年間教育を受けるために必要な資金を援助する冠奨学金基金の設立

施設関連

- キャンパス建設基金 \$100,000～
バングラデシュチッタゴンにアジア女子大学のキャンパスを建設するための支援
- 図書館開設基金 \$500,000
図書館の資料を調達するための基金
- キャンパス計画&建設基金 \$1,000,000～
現時点での建設への支援は大学設立の礎石となります

これ以外の寄付に関しては、www.asian-university.org/pages/giftopps.htmをご覧ください。アジア女子大学への寄付は、国際交流基金(ジャパンファウンデーション)の特定寄附金制度を通じて、日本国内での税制上の優遇措置を受けることができます。